

第10節 島民の取り組み

1 小鷹神社の再建

今回の地震により、玄界島は住宅のみならず、小鷹神社も大きな被害を受け、神社本殿は大きく傾き、早急に修復作業を行う必要があった。しかし、神社は住宅ではない(宗教関連施設である)ことや、復興事業の事業用地として取得する必要性が無かったため、行政としては、小鷹神社の再建に手を出すことができなかった。

小鷹神社の管理運営は、これまで自治会が世話役として行われてきたことから、修復についても、当初自治会により検討が行われた。しかし、小鷹神社の復旧は、島全体の復興とも関連があるため、復興委員会において、島全体の復興と合わせて一体的に検討することとなり、平成17年10月29日(土)に小鷹神社の修復について、復興委員6名からなる「神社部会」が設立された。

以後、この神社部会を中心に修復方法の検討が行われ、まず、平成17年11月26日の第4回島民総会では、「応急処置、応急修理、修復修理・補強を一括して行うこと、その費用は小鷹神社修復負担金として、各世帯から均等に集めること」が決定され、また、平成18年1月28日の第5回島民総会において、修復内容と金額予定、業者の説明を行い、島民総意の了解が得られた。

の修復工事が完了した。こうして、地震から約2年8ヶ月が経過した、平成19年12月5日には漸く震災前と同様、小鷹神社大祭が執り行われた。



傾いて隙間が空いた拝殿



崩落した鳥居



倒れた玉垣



崩れ落ちた白壁

また、平成18年5月24日には、「福岡ソフトバンクホークス」の協力により、福岡ソフトバンクホークス対横浜ベイスターズの試合を、小鷹神社復興チャリティー試合として、売上金の一部が小鷹神社の再建に寄付されることになった。

以後、各世帯からの負担金やソフトバンクホークス等からの寄付金をもとに、神社部会や自治会が主体的に修復工事の段取りを行い、平成18年7月18日には、ご神体が無事小鷹神社に奉納され、また、平成19年11月には、鳥居を含めた全て



資材を運搬する島民



島民総出でしめ縄づくり



修復が完了した小鷹神社



復旧された玉垣・鳥居



鳥居の復旧



崩落した鳥居は保存